



2017年4月3日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社  
代表者 代表取締役社長 CEO 畑中 好彦  
コード番号 4503  
(URL <http://www.astellas.com/jp>)  
東証 (第一部)  
決算期 3月  
問い合わせ先 広報部長 臼井 政明  
Tel: (03)3244-3201

## ベルギー Ogeda 社買収に関する契約締結

### - 臨床開発段階の fezolinetant 獲得によりパイプラインを拡充 -

アステラス製薬株式会社(本社:東京、以下「アステラス製薬」)は、医薬品企業 Ogeda SA(本社:ベルギー Gosselies、CEO:Jean Combalbert、以下「Ogeda 社」)の株主との間で、アステラス製薬が Ogeda 社を買収することに合意し、契約を締結しましたのでお知らせします。Ogeda 社は、G タンパク質共役受容体(GPCR)<sup>1)</sup>に関する複数の低分子化合物プログラムを有しています。最も進んだ臨床開発段階にある fezolinetant は選択的 NK3 受容体拮抗薬であり、更年期に伴う血管運動神経症状(VMS)<sup>2)</sup>に苦しむ患者さんを対象とした非ホルモン治療に関する前期第 II 相試験において良好な結果が得られています。アステラス製薬は、本買収により臨床開発段階のパイプラインを拡充し、中長期の成長をより盤石なものとしていきます。

本買収契約に基づき、アステラス製薬は Ogeda 社の株主に対し、買収完了時に、同社の全株式の対価として契約一時金 5 億ユーロを支払い、更に、fezolinetant の開発の進捗に応じて、最大で総額 3 億ユーロを支払う可能性があります。今後、アステラス製薬は米国の Hart-Scott-Rodino 法で定める待機期間が終了することなどの前提条件や、必要な法的諸手続きを経て、2017 年度第 1 四半期中に買収を完了し、Ogeda 社を完全子会社化する予定です。

アステラス製薬の代表取締役社長 CEO の畑中 好彦は次のように述べています。「本買収は、アンメットメディカルニーズの高い疾患に対する新薬を患者さんに届けるというアステラス製薬の戦略に合致するものです。Ogeda 社は、更年期に伴う VMS 治療に対する NK3 受容体拮抗薬の開発を行う先端企業です。アステラス製薬は、これまでに生活の質を改善するための新たな治療法を数多く創製してきました。この強みを活かし、更年期に伴う VMS に苦しむ患者さんへ新たな治療選択肢を提供できることを期待しています。」

Ogeda 社の CEO である Dr. Jean Combalbert は、次のように述べています。「アステラス製薬による今回の買収を大変嬉しく思います。今回の買収により、更年期に伴う VMS に苦しむ患者さんへ、世界で初めての安全性の高い非ホルモン治療薬 fezolinetant を提供できることを期待しています。アステラス製薬の高い開発・販売力、リソース、理念があれば、臨床試験で良好な結果が得られている fezolinetant を患者さんの価値に変えられると信じています。」

2017 年 1 月に公表された fezolinetant の前期第 II 相試験では、更年期に伴うホットフラッシュ<sup>3)</sup>症状を有する患者 80 例において、以下の主要評価項目に対し、プラセボと比較して有意な改善が認められています。中等度から重度のホットフラッシュの頻度は、投与後 4 週においてベースラインから 89%減少(プラセボでは 38%減少、 $p<0.001$ )、投与後 12 週においてベースラインから 93%減少(プラセボでは 54%減少、 $p<0.001$ )しました。また、ホットフラッシュの重症度は、投与後 4 週においてベースラインから 60%減少(プラセボでは 12%減少、 $p<0.001$ )、投与後 12 週においてベースラインから 70%減少(プラセボでは 23%減少、 $p<0.001$ )しました。重度の有害事象は認められず、軽度から中程度の有害事象(頭痛や鼻咽頭炎など)の発現率は 67%(プラセボでは 80%)でした。

なお、本買収によるアステラス製薬の通期(2018 年 3 月期)連結業績への影響は現在精査中です。

## 記

### 買収の概要

- (1) 株式取得者: アステラス製薬株式会社
- (2) Ogeda 社の主要株主: Vealius Biocapital II SA Sicar、Fund+ NV、SRIW SA、Capricorn Health-Tech Fund NV、BNP Paribas Fortis Private Equity Management SA
- (3) 株式の取得方法: 現金(手元資金を充当)
- (4) 対価:
  - Ogeda 社の全株式を取得するための契約一時金として 5 億ユーロ
  - Ogeda 社で最も進んでいる臨床開発プログラム fezolinetant の開発の進捗に応じ、最大で総額 3 億ユーロ
- (5) 買収完了予定日: (米国の Hart-Scott-Rodino 法で定める待機期間の終了及びその他必要な法的諸手続きを経て)2017 年度第 1 四半期中

- (6) アステラス製薬の財務アドバイザー:なし
- (7) アステラス製薬の法務アドバイザー: Jones Day
- (8) Ogeda 社の財務アドバイザー:なし
- (9) Ogeda 社の法務アドバイザー: White & Case LLP

### 対象会社の概要

- (1) 名称: Ogeda SA
- (2) 所在地: ベルギー Gosselies
- (3) 代表者: Jean Combalbert, CEO
- (4) 設立: 1994 年
- (5) 資本金: 34,000,000 ユーロ (2017 年 3 月末時点)
- (6) 従業員数: 41 名
- (7) アステラス製薬との関係: 対象会社との間には、記載すべき関係はありません。

以上

1) G タンパク質共役受容体 (GPCR): 受容体の一種であり、細胞膜を 7 回貫通する特徴的な構造から 7 回膜貫通型受容体と呼ばれることもある。細胞外の神経伝達物質やホルモンを受容してそのシグナルを細胞内に伝えるが、その際 G タンパク質を介してシグナル伝達が行われる。GPCR は多くの疾患に関与していることが分かっている。

2) 更年期に伴う血管運動神経症状 (VMS): 更年期障害の症状の一種であり、ホットフラッシュ<sup>3)</sup>、発汗などのこと。

3) ホットフラッシュ: のぼせ、ほてりなどの総称。

### Fezolinetant について

Fezolinetant は、Ogeda 社によって創製され、更年期に伴う VMS で開発中の経口低分子化合物です。Fezolinetant は、GPCR の一つであるタキキニン NK3 受容体阻害薬であり、体温をコントロールする特定のニューロンに作用し、更年期に伴う VMS に苦しむ患者さんの体温知覚の正常化へ直接的かつ安全にアプローチします。

### Ogeda 社について

Ogeda 社は、ベルギーにある非上場の医薬品企業です。Ogeda 社は低分子の GPCR 創薬の研究開発に注力しており、最も進んでいる開発候補品 fezolinetant は女性特有の複数の疾患に対する第 II 相試験を実施中です。その他にも、前臨床段階に、炎症、自己免疫疾患を含む複数の疾患を対象とした低分子化合物を複数有しています。Ogeda 社は、Vealius Biocapital II SA、Sicar、Fund+ NV、SRIW SA、Capricorn Health-Tech

Fund NV、BNP Paribas Fortis Private Equity Management SA 等の株主から出資を受けています。詳しくは、以下のサイトをご覧ください。 [www.ogeda.com](http://www.ogeda.com)

#### **注意事項**

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラスの業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。